

水不足は身近な問題

横浜市立新羽中学校

三年 初山 智康

日本は水に恵まれている。そう思われがちである。だが、日本でもたびたび渇水が発生し、水道水の断水などが起こってしまっている。蛇口をひねれば当たり前前に水が出てくる日本でも水不足といわれている。一体何が、水不足になる原因なのだろう。

私が初めて水不足について考えたのは、小学五年生の世界問題についての授業のときだった。家に帰り、親に「どうして日本は水がたくさんあるのに、世界では水が不足しているの。」と聞いたとき、「実は世界だけじゃなくて、日本も割と水が不足しているんだよ。」と返ってきた。この言葉で水不足は身近な問題だということに気づき、水不足について調べてみることにした。すると、意外な理由が分かった。一つ目は、地球温暖

化による気候変動によって、水が必要なときに使えなくなっていることだ。二つ目は都市開発による森林伐採で水が減少してしまっていることだ。しかし、これが水不足の原因になる？と不思議に思う人も居るだろう。

「地球温暖化も森林伐採も水が不足する原因ではないのではないか」と。しかし、ちゃんと水不足の原因になっているのである。

地球温暖化が進むと、強い雨が降る日数が増える代わりに弱い雨が降る日数が減り、干ばつが起る日が多くなってしまふ。極端に雨が降ること、水を効率的に使えなくなってしまうのである。

そして、森林は雨水を蓄え、綺麗にし、時間をかけて流してくれる。そのため、川の渇水を防ぎ、なおかつ、洪水も防いでいるのだ。つまり、森林伐採をしてしまうと、水が染みこまなくなってしまい、水が流れていってしまうのだ。しかも、森林があればいいというわけでもなく、しっかりと間伐や枝打を行わないと、森林は荒れ果て、水源かん養の低いものとなってしまふ。しかし、この大変な作業をする人たちがだんだん減ってきてしまっている。故に、日本にある森林のうちの十一パーセン

トが荒廃地である。

では、どのようにすれば水を守っていけるのか。そう考えているうちに、節水することも水を守る大切な取り組みだが、それだけでは、水を完全に守ることはできないのではないかと思った。節水しても、地球温暖化や森林の伐採や荒廃が続いていくと、どんどん水が減っていつてしまうだろう。

多くの人は水不足の対策と言ったら、節水を思い浮かべるだろう。だが、もっとできることがあるのではないか。例えば、水不足に地球温暖化が関わっているのならば、二酸化炭素の排出量を減らすために、節電する、マイバックを持ち歩く、自転車での外出を心がける。森林の伐採や荒廃が関わっているのならば、再生紙を積極的に使う、紙を節約する。水不足の原因はいろいろな物事と絡んでいる。だからこそ、私たちにもできる、水を守るための比較的簡単な取り組みが、節水の他にもたくさんあるはずだ。水不足は身近な問題でもある。このことを一人ひとりが理解し、皆が取り組んでいくことが、水を守ることに繋がっていくはずだ。